

立会の風

（校長通信）No.16 校長 滝淵 正史

ブックフェスタを実施しました

先週の土曜日は、ご案内の通り、ブックフェスタでした。各学年の出し物は次の通りです。

- 1年生：ききにおいでよ！むかしばなし
- 2年生：のはらうた
- 3年生：響けぼくらの音読劇
- 4年生：立会寄席
- 5年生：古典の世界へようこそ
- 6年生：立会版ミニビブリオバトル



4年生の「立会寄席」の一場面

ブックフェスタは、本校の特色ある取り組みの一つで、本の楽しさに触れたり、さらに高学年になると、本の世界から人物理解まで読みを深めたりということを目指しています。学年の発達段階によって、発表に趣向を凝らしていました。保護者のみなさまに見ていただく設定にはしませんでしたので、この紙面で簡単にご紹介します。

- 1年生：「おむすびころりん」を、みんなで声を合わせたりふりを付けたりして、楽しく演じていました。
- 2年生：工藤直子さんの「のはらうた」、グループごとに、暗唱して、場面にあった身振りを付けて大きな声で表現しました。
- 3年生：「きつつきの商売」の続きを自分たちで考え、工夫して音響を加えながらグループで発表しました。
- 4年生：落語の話者として、一人で複数の登場人物になりきりながら、演じ分けていました。グループで協力して話を引き継いでいきました。
- 5年生：自分たちでも理解の難しい古典を、聞き手にどう伝えたらいいだろうかと考え工夫しました。発表ではタブレットを活用しました。
- 6年生：一人1冊本を選んで、聞き手に、自分が選んだ本の楽しさを工夫して伝えました。選んだ本に対する思い入れが十分に伝わってきました。

子どもたちは、自分たちが発表するだけでなく、3つの学年の発表を見ることができました。運動会でも、翌週他学年の表現を見る機会がもてましたが、学校教育の中で、この「他学年の取り組みを見合う」ことの意義を、今回改めて強く感じました。どの学年の発表もみんな食い入るように見ていましたし、率直に感想を伝え合う場面をたくさん見かけました。よかったと思ったところを、感じた人の言葉で伝えられることは、発表した子どもたちの達成感の向上にもつながっていました。「見てもらう」というという場面設定は、やはり発表者の力になります。

何より、どの学年も、一人一人の発表に向けた姿勢に真剣さを大いに感じました。特に、学年が進むと、その内容について、すべて自分たちで考え作り上げました。また一つ、児童の成長が感じられた瞬間に立ち会うことができました。